

さまよえるコアジサシを守るために必要なこと

藤田 剛 (東大・農・生物多様性)、藤井 幹 (日本鳥類保護連盟)

「コアジサシは一か所に長居しない...」コアジサシの調査や保全活動をしたことのある人は、そのことを痛切に感じています。景観がそれほど変化していないにも関わらず、ある年には数 100 羽、数 1000 羽が繁殖していた場所に翌年数羽しかやってこない... ということは稀ではないようです。

これは、コアジサシがある地域に安定して繁殖するためには、そこに何か所もの繁殖可能場所を必要としている可能性を示しています。コアジサシの生息地保全のためには、どこか一か所だけ繁殖地を守るだけでは不十分かも知れないのです。

しかし、このコアジサシコロニーの不安定さについては、あまり情報がありません。ある場所に形成されたコロニーの継続期間や、その場所を捨てたコアジサシはどの範囲まで移動するのかといったことは、ほとんど分っていません。

そこで、私たちはコアジサシを対象とした広域・長期モニタリングデータを用い、この問題に取り組むことにしました。広範囲にわたりコロニーの位置や個体数の経時的な変化を抑えたデータがあれば、対象地域でのコロニー形成と消失のパターンなどを解析することが可能だと考えられます。

この自由集会では、環境省定点調査のデータ、千葉県立中央博と水鳥研究会が収集したデータをもとに、コアジサシのさまよいの程度を解析し、コアジサシの営巣地保全のために必要な保全のあり方を検討します。

1. はじめに： 藤田 剛
2. 日本全域でみたコアジサシの繁殖分布の変遷： 藤井 幹
3. 地域レベルで見たコアジサシの繁殖分布変遷と生息地保全
 - a. 東京湾： 早川雅晴・箕輪義隆(水鳥研究会)・桑原和之(千葉県立中央博)
 - b. 東京湾以外： 森田博之・藤田 剛 (東大・生物多様性)
4. コアジサシの繁殖場所移動を考慮した生息地保全： 藤田 剛

